

## 校内研究の概要

石巻市立石巻小学校

### I 研究主題

#### 我が国の伝統文化を尊重する児童を育てるための教育課程の編成

—「かしわタイム」を中心とした体験活動を通して—

### II 主題設定の理由

#### 1 教育目標の具現化と学校経営の方針から

- ◆「校訓五箇条」  
明治39年制定  
平成17年復活
- 一、げんきよくせよ
- 一、まじめにせよ
- 一、ひとりでせよ
- 一、よくこらえよ
- 一、しかとおぼえよ

本校の教育目標は、「よく学び、心身ともにしなやかで、たくましい児童の育成を図る」である。そして、目指す学校像を「一人一人の子どもが伸び伸びと過ごし、これからの時代を生き抜く上で必要な知・徳・体の力とそれを支えるために必要な力を確かに身に付けることができる学校」とし、「知育（あたまそだて）」「徳育（こころそだて）」「体育（からだそだて）」「食育（いのちそだて）」が調和する教育課程を目指している。また、「温故創新」を学校経営の基本姿勢として掲げ、児童にとって、あるいは保護者や地域にとって必要なこと、大事にしていきたいことを再生する努力を重ねていくことを学校経営の方針としている。

本校では、「校訓五箇条」を教室の前面に掲げて朝会や朝の会で唱和させ、児童の行動や考え方の拠り所、中核となるような指導を行っている。また、6年生の児童には、毎朝本校のシンボルである校（略）旗を掲揚させ、伝統や校風を実感させる体験を行わせている。このような、伝統を受け継ぎ・磨き・創り・伝えていく「温故創新」の姿勢は、本校の教育活動全般にわたって息づいており、母校となる石巻小学校、ひいては郷土である石巻を愛する心を育てることを目指して日々実践している。

#### 2 昨年度までの研究の経緯から

- ◆「技化」  
伝統文化における作法や技能を発達段階に応じて確実に身に付けること。  
また、石巻小学校礼儀作法指南書の型を身に付けること。

本校では平成16年度まで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、年間指導計画の工夫・改善や授業実践を行ってきた。その中で、より効果的な学習成果の生み出すために、今後の教育課程改善の課題として次の二点が明らかになってきた。一つ目は、学習・生活における基本的行動様式や体を落ち着かせるための自己コントロールの方法をしっかりと身に付けさせる必要があるということ、二つ目は、生活に息づく伝統や文化の体験活動を通して、児童のものの見方や考え方を更に磨き、視野を広げさせていく必要があるということである。

そこで平成17年度から、「必要なことは繰り返し指導して技化し、豊かな心を育てていく」という視点から、礼儀作法指導を中心とした日本の伝統文化を校内研究のテーマとして取り上げて研究を行ってきた。本校独自に生み出した時間「かしわタイム」を中心にして実践を進め、各教科や総合的な学習の時間などにおいても伝統文化と関連させた教材の開発を行ってきた。このことについては、国立教育政策研究所から、「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」の指定（第一次：平成17年度、第二次：平成18年度～19年度 第三次：平成20年度～平成21年度）を受けている。

### 3 児童の実態から

#### (1) 日常的な取組の様子から

##### ◆「礼三息」

おじぎは相手に対する敬意を心から示す動作であり、相手に合わせる事がとても大切だという考えから、あいさつなどの日常のおじぎを三つの呼吸で行うこと。

本校では、学習や生活の基礎・基本となる礼儀作法の技化を図るため、今までの石巻小学校の職員が指導してきた学習のきまりや生活の躰など、礼儀作法の型を取りまとめて「石巻小学校礼儀作法指南書」（平成17年9月）を作成した。「かしわタイム」における「礼儀作法」などの実践においては、この指南書を用いて学年の発達段階に応じて指導を行っている。さらに平成19年度には、「学習に関する指導規範」と「給食に関する指導規範」を、平成20年度には、「ノートの使い方」などを追加作成した。

本校の教員がこの指南書を指導の拠り所にしなが、共通した指導を行ってきたことにより、児童は、生活の中に息づいている伝統文化に対する価値の理解を深め、新たなものの見方や考え方ができるようになってきている。以下は、昨年度累積してきた児童の「感想カード」の一部である。

・おじぎのしかたがじょうずだねと、ほめてもらったので、とてもうれしかったです。

(日常指導「礼三息」 1年生)

・ごはんを食べるとき、小さいものもつまめるようになってきたので、はしの持ち方がじょうずになったんだなあと感じました。

(日常指導「はしの持ち方」 2年生)

・ふろしきでおつかいつつみと四つつみを教わりました。ちょっとむずかしかったけど、教わってよかったです。こんど出かけるとき、ふくろのかわりにふろしきを使ってみたいと思います。大人になるまでずっとおぼえていたいと思います。

(かしわタイム「風呂敷」 3年生)

・和室でのれいぎ作法は、最初はとてもきゅうくつでしたが、だんだん楽に正座をしたりすることができるようになりました。何回もやっているうちに、きちんと身につけてきたので、これからの生活にも生かせると思います。しびれたときのきざというなおし方も分かってよかったです。

(かしわタイム「坐礼」 4年生)

・私はテレビ番組で、ふすまの開け方・閉め方を見たことがありました。だから、かしわタイムでやるのもきつとだじょうぶだと思っていました。でも開けたり閉めたりするときに、いざとなるとどっちの手を使うかわずれてしまって、とてもあわてました。家でもきちんと練習をして、どこへいってもはずかしくないようにしていきたいです。

(かしわタイム「ふすまの開け方・閉め方」)

・私は初めてお茶をたてたり飲んだりしました。細かい作法がたくさんあって、おぼえるのがたいへんでしたが、相手の人への心くばりだと分かって、がんばりました。それに「和敬清寂」などのお茶の心も勉強しました。大人になってもこの気持ちを生かしていきたいと思います。

(かしわタイム「茶道」 6年生)

#### (2) 実態調査の結果から

平成21年12月に実施した実態調査では、全校児童の9割以上があいさつを意識して生活していることが分かった。教師による日常的な観察でもしっかりと立ち止まってあいさつをしたり、来客に対して大きな声であいさつをしたりする姿が見られ、きちんと定着しているのとらえられる。また、地域の方々から

も、いろいろな場面で本校の児童の礼儀正しさを評価していただいております、それを裏付ける結果が児童の意識からも明らかになっている。

あいさつ以外の礼儀作法では、低学年で「学習の約束」「いすへの座り方」についてしっかり意識して取り組んでいる児童が多い。「はしの持ち方」は、しっかり意識して取り組んでいる児童が8割弱であるので、矯正ばしの活用などを通してしっかりと身に付けさせていく必要がある。中学年でもほとんどの調査項目で8割を超えており、とりわけ「食事の約束」は9割以上の児童が意識していると答えている。一方で「鉛筆の持ち方」については6割を切っており、授業時間はもとより家庭学習でも継続して指導していくことが必要である。高学年でもほとんどの調査項目で8割以上の児童が意識して生活していると答えている。「和室での立居振舞」は家庭ではあまり意識していない様子が見られるが、高学年でも日常的にれいぎ作法を意識して生活しているのは、これまでの取組の積み重ねであると考えられる。

#### 4 保護者や地域の願いなどから

平成21年度の学校評価（保護者）において、ほとんどの保護者が「かしわタイム」の取組や日常の礼儀作法の指導などが児童のより良い成長に結び付いていると答えている。活動の様子を児童から聞いたりホームページで見たりし、また参観日等で直接見たりすることで、本校の取組みに理解をいただいていると思われる。

また、学校評議員連絡会でも、礼儀作法をはじめとした伝統文化への取組が児童に良い影響を与えており、将来必ず役に立つという意見をいただいている。

以上の点及び昨今の伝統文化を尊重する教育の重要性の指摘を踏まえ、本研究主題を設定した。

### Ⅲ 研究主題について

#### 1 主題について (1) 我が国の伝統文化

本校では「我が国の伝統文化」を以下の3点でとらえる。

- ①長い年月を経て、日々の中で様々に形を変えて伝わってきたもの
- ②現代において評価され、価値のあるもの
- ③新たな文化となって未来へと受け継がれていくもの

そして「伝統文化教育」とは、これらを学校において意図的・計画的に指導していく営みであると考えられる。

本校で取り上げる我が国の伝統文化の内容は、次のとおりである。

- |            |                |               |
|------------|----------------|---------------|
| 1 年中行事     | 2 礼儀作法         | 3 染織、文様、服飾    |
| 4 伝統食・郷土食  | 5 寺社建築、住居、庭園   | 6 家具、農・漁具、装身具 |
| 7 囲碁、将棋    | 8 郷土玩具、伝承遊び    | 9 和歌、俳句、民謡    |
| 10 民俗芸能、祭り | 11 和太鼓、民謡、わらべ歌 | 12 茶道、書道、香道   |
| 13 合気道、剣道  | 14 その他         |               |

#### (2) 伝統文化を尊重する児童

本校では「伝統文化を尊重する児童」を次のような段階でとらえる。

- ①「伝統文化に関心をもつ」段階
- ②「日常生活に進んで生かそうとする」段階
- ③「伝統文化を尊重する」段階

①は、上記の内容を伝統文化教育の中で取り上げることにより、郷土や自国の伝統文化、歴史に対して、「見てみたい」「聞いてみたい」「体験してみたい」「調べてみたい」などの気持ちをもって主体的に学習に取り組んだり、楽しんだりしようとする児童の姿が見られる段階である。

②は、児童が我が国の伝統文化に関心をもって主体的に学習に取り組み、歴史的な変遷の中で伝承されてきた文化や培われてきた身体文化の型に触れたことにより、学校生活や家庭・社会での生活において、礼儀作法を生かして相手に接したり、石巻小学校の一員としての自覚と誇りをもって生活したりする姿が見られる段階である。

そして③は、日常生活で伝統文化を生かすことを繰り返し継続する中で、心と形の一体化が図られるようになるとともに、地域や日本の伝統文化に対する価値の理解を深め、新たなものの見方や考え方ができるようになる段階であるととらえる。

今年度は伝統文化に関する研究が6年目を迎える。③の「伝統文化を尊重する」段階をさらに充実させるとともに、教材の開発、指導法のより一層の工夫などにより、それぞれの段階をより深めていきたいと考えている。

## 2 副題について

### (1) 「かしわタイム」を中心とした体験活動

「かしわタイム」は、伝統文化教育を推進する目的で学校独自に生み出した時間である。各学年に年間10時間ずつ設定し、本校の伝統文化教育推進の中心的な活動として位置付けている。内容は「礼儀作法」「百人一首」「年中行事」「石小伝承踊り『だるま』」「茶道」「折り紙・風呂敷」の6領域で、学年の発達段階を考慮して目標や学習内容を設定している。

### (2) 「かしわタイム」のねらい

上記の6領域10時間の体験活動を通して、我が国の伝統文化や地域に根ざす伝統文化への関心を深め、それらを大切にしようとする態度を育てるとともに、生活の中で伝統文化のよさを生かそうとする意欲を高める。

### (3) 「かしわタイム」の評価

評価に当たっては、それぞれの領域・活動ごとに「かしわタイム」のねらいに応じた形成的評価を中心に行い、児童に確実に技化させることができるような指導法の工夫及び指導計画改善へ役立てることを目的とする

#### ◆日本の伝統文化への関心・意欲・態度

自分の考えをもち、進んで日本の伝統文化に親しもうとしている。

#### ◆日本の伝統文化についての思考・判断

日本の伝統文化がもつよさに気付いている。

#### ◆日本の伝統文化の技能

伝統文化における作法や技能を発達段階に応じて身に付けている。(技化)

#### ◆日本の伝統文化についての知識

伝統文化を育んできた歴史や風土、価値について理解している。

## IV 研究目標

我が国の伝統文化を尊重する児童を育成するための教育課程の在り方を、「かしわタイム」を中心とした体験活動を通して明らかにする。

## V 研究仮説

本校の教育課程の編成において、以下のような具体的な手だてを講じていけば、我が国の伝統文化を尊重する児童を育成することができるであろう。

- ① 和室の活用を図りながら「かしわタイム」を継続的に実践し、発達段階に応じた伝統文化に関する体験活動の内容や技化を目指した指導方法の在り方を工夫する。
- ② 「石巻小学校礼儀作法指南書」を活用した礼儀作法に関する日常指導や、伝統文化のよさに触れさせるための学年ごとの取組を工夫する。
- ③ 伝統文化と関連させた「総合的な学習の時間」「教科、道徳、特別活動」の教材開発及び指導計画の改善を図る。

## VI 本年度の研究に当たって

### 1 研究の内容

- |              |   |
|--------------|---|
| (1)かしわタイム    | ◆「かしわタイム」を継続的に実践し、指導計画の改善・充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"><li>・各学年の発達段階に応じ、「ねらい」をしっかり押さえ、何をどのように技化させるのかを明確にしながら継続実践していく。</li><li>・春季大運動会における「石小伝承踊り『だるま』」の指導計画の改善・充実を図る。</li></ul>   |
| (2)総合的な学習の時間 | ◆「総合的な学習の時間（伝統文化にふれよう）（20時間）」を継続実践し、指導計画の改善・充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"><li>・HPに掲載した活動の様子を見たり、実際に活動の様子を見合ったりすることにより、職員で共有化を図る。</li><li>・指導に関する掲示物やテキスト等の確実な資料化を図る。</li><li>・異学年の交流を促進する。</li></ul>   |
| (3)教科、道徳、特活  | ◆伝統文化と関連させた「教科、道徳、特別活動」を継続実践し、指導計画の改善・充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"><li>・「伝統文化教育全体計画」の改善・充実・整備を図る。</li><li>・伝統文化と関連させた「教科、道徳、特別活動」の指導計画の充実・改善を図る。</li></ul>  |
| (4)日常指導      | ◆「石巻小学校礼儀作法指南書」を活用し、また職員の日常的な研修による「礼儀作法」の「技化」を目指した日常指導を継続するとともに、伝統文化のよさに触れさせるための日常的な 学年の取組を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"><li>・「礼儀作法に関する一日の日常指導規範」に基づく指導を徹底し、礼儀作法の重点的指導を継続する。特に「呼吸法」や「礼三息」の指導を確実に行う。</li><li>・「朝の会」や「帰りの会」で呼吸法を用いた黙想を継続的に実践する。</li><li>・学年の創意を生かした伝統文化に触れさせるための取組を工夫する。</li><li>・食育と関連させた礼儀作法指導の共通実践を行う。</li><li>・発達段階に応じた学習の約束の共通実践を行う。</li><li>・児童の意欲が高まるような暗唱指導の方法を学年ごとに工夫する。</li><li>・鉛筆の正しい持ち方についての指導を徹底する。</li></ul> |

(5) 実態調査及び  
環境整備

- ◆ 伝統文化に関する児童の実態把握及び環境整備を行う。
  - ・ 質問紙及び感想の蓄積による児童の実態の把握を行う。
  - ・ 伝統文化に関する教材・教具、実践資料の整理、活用を図る。
  - ・ 「和室」の活用計画を作成し、効果的な運営を図る。
  - ・ 伝統文化への興味や関心を高めるための校内掲示を行う。

2 研究組織

校 長	教 頭	研究 推 進 委 員 会	活 動 研 究 部	企画部	◎永沼 大沼 菅井 三浦(純) 岡本
				統計部	◎相沢 須藤 岡 大森 相澤
				環境部	◎三浦(さ) 伊藤 高砂 村上
			学 年 部	低学年部	◎大沼 相沢 菅井 伊藤 三浦(さ) 須藤
				中学年部	◎高砂 三浦(純) 大森 岡
				高学年部	◎永沼 岡本 相澤 村上

研究部	主な活動内容
企画部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「かしわタイム」の指導計画の改善</li> <li>・ 「礼儀作法」に関する継続的な職員研修</li> <li>・ 「礼儀作法」の指導に関するDVDの作成及び活用計画</li> <li>・ 春季大運動会における「石小伝承踊り『だるま』」の指導計画の改善・充実</li> <li>・ 「学習に関する指導規範」「給食に関する指導規範」の指導計画の改善・充実</li> <li>・ 「鉛筆・箸の正しい持ち方」「ノートの使い方」の指導計画の改善・充実</li> <li>・ 職員の伝統文化体験研修の計画</li> </ul>
統計部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「活動研究会」における児童の感想の集約</li> <li>・ 伝統文化に関する活動（「かしわタイム」「総合的な活動の時間『伝統文化に触れよう』」等）に関する児童の感想の蓄積</li> <li>・ 実態調査の計画・実施・考察</li> <li>・ 各学年の日常指導のHPへの掲載（毎月末）</li> <li>・ 研究に関するHPの整備</li> </ul>
環境部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「和室」の運営及び「月別使用割り当て」の作成</li> <li>・ 活動研究会の写真掲示</li> <li>・ 伝統文化への興味や関心を高めるための校内掲示</li> <li>・ 伝統文化に関する教材・教具、実践資料の整備・保管・活用推進</li> </ul>

### 3 主な研究の取組と内容

月	内 容	月	内 容
4	<p>○研究計画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題、研究内容等の決定</li> <li>・各研究部活動計画の立案</li> <li>・学年部仮説の立案</li> <li>・伝統文化と関連させた「教科、道徳、特別活動」指導一覧の確認と共通理解</li> </ul> <p>○給食、学習のきまりに関する日常指導の共通理解</p> <p>○転入職員オリエンテーション</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (6年)</p>	10	<p>◆活動研究会「かしわタイム④」(5の1)</p> <p>○学芸会</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (6年)</p>
5	<p>○研究計画立案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化と関連させた「各教科・道徳・特別活動」指導計画の立案</li> </ul> <p>○「伝統文化クラブ」「武道クラブ」「囲碁クラブ」活動開始</p> <p>○職員研修(12) (伝統文化体験)</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (5年)</p>	11	<p>◆活動研究会「かしわタイム⑤」(1の2)</p> <p>◆活動研究会「教科・総合⑤」(4の2)</p> <p>○毛利コレクション特別展見学</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (5年)</p>
6	<p>○春季大運動会 (石小伝承踊り「だるま」)</p> <p>◆活動研究会「かしわタイム①」(4の1)</p> <p>◆活動研究会「教科・総合①」(6の1)</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (4年)</p>	12	<p>◎学力向上サポート (3) (教⑥2の1 教⑦5の2)</p> <p>◆活動研究会「かしわタイム⑥」(3の2)</p> <p>○伝統文化に関する実態調査</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (4年)</p>
7	<p>◎学力向上サポート (6) (教②) (3の1)</p> <p>◆活動研究会「かしわタイム②」(1の1)</p> <p>◎学力向上サポート (23) (模擬授業・岡本)</p> <p>○マンガ灯ろう祭り参加 (25) (灯ろう出品)</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (3年)</p>	1	<p>☆HP 日常指導掲載 (3年)</p> <p>&lt;特別支援学級授業参観&gt;</p>
8	<p>○職員研修 (伝統文化の体験)</p> <p>○環境整備の具体的推進</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (2年)</p>	2	<p>○研究のまとめと反省</p> <p>○「研究のあゆみ」作成</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (2年)</p>
9	<p>○指導主事学校訪問 (8)</p> <p>○敬老週間</p> <p>◆活動研究会「かしわタイム③」(6の2)</p> <p>◆活動研究会「教科・総合③」(2の2)</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (1年)</p>	3	<p>○次年度計画立案</p> <p>☆HP 日常指導掲載 (1年)</p>

## VII 各学年部の目指す児童像と具体的な手だて

低学年部の目指す児童像	
(1) 日本の伝統的な音楽や行事に関心をもち、楽しみながら取り組もうとする児童 (2) 礼儀作法の場と形を知り、日々の生活に生かそうとする児童	
具体的な指導の手立て	①「かしわタイム」の各領域において、学年の系統性を意識した授業実践を行う。 ②音楽科における「リズムののってあそぼう」や国語科における「かさこじぞう」の単元において、伝統文化と関連させた授業実践を行う。 ③『礼儀作法指南書』における、「学習のしつけ」「食事のしつけ」の指導を重点的に行う。

中学年部の目指す児童像	
(1) ふるさとの歴史や文化に関心をもち、地域の祭りに進んで参加しようとする児童 (2) 礼儀作法における形と心の大切さを意識し、日々の生活に進んで生かそうとする児童	
具体的な指導の手立て	①「かしわタイム」(風呂敷)の授業実践を行う。 ②「総合的な学習の時間(伝統文化にふれよう)」において、「川開き祭り(3年)」及び「装身具(4年)」における体験活動の実践を行う。 ③伝統文化と関連させた国語科における「祭りについて調べよう」の授業開発や社会科における「土地の特色を生かした伝統工業」の教材開発を行う。 ④「礼儀作法指南書」を活用した日常指導を継続的に行うとともに、「正坐」「礼と呼吸」の指導を重点的に行う。

高学年部の目指す児童像	
(1) 我が国の歴史や文化を尊重し、それらを日常生活に取り入れようとする児童 (2) 礼儀作法における相手への心遣いの大切さを意識し、心を込めて美しい形で実践しようとする児童	
具体的な指導の手立て	①「かしわタイム」の各領域において、学年の系統性を意識した授業実践を行う。 ②「総合的な学習の時間(伝統文化にふれよう)」において、「米作り」(5年)や「伝統食」(6年)に関する体験活動の実践を行う。 ③伝統文化と関連させた社会科における「水産業」(5年)や「源頼朝と鎌倉幕府」(6年)の単元において、伝統文化と関連させた授業実践を行う。 ④『礼儀作法指南書』を活用した日常指導を継続的に行うとともに、和室での「立ち居振る舞い」の指導を重点的に行う。



## VIII 伝統文化に関する研究の経緯

### ◆平成17年度研究主題

#### 我が国の伝統文化のよさを感じ取らせる教育課程の編成 －「かしわタイム」指導計画の作成を中心として－

以下の観点からカリキュラムを開発すれば、児童に伝統文化のよさを感じ取らせる教育課程を編成することができるであろう。

観点(1) 伝統文化教育の教育課程へ位置付けの在り方

観点(2) 伝統文化教育に関する指導内容、指導方法、教材開発の在り方

観点(3) 地域の人材や関係団体との連携を図った伝統文化教育の在り方

<主な研究内容>

- ・「石巻小学校礼儀作法指南書」の作成
- ・「かしわタイム」指導計画（礼儀作法、和太鼓、百人一首、茶道、大漁踊り、年中行事）の作成
- ・「総合的な学習の時間（伝統文化にふれよう）」指導計画の作成
- ・8回の活動研究会の実施
- ・伝統文化に関するクラブ活動（伝統文化クラブ、武道クラブ）の開始
- ・呼吸法の試行(4年)、礼三息による礼の指導開始
- ・「学校だより」や本校ホームページで伝統文化教育の実際について紹介

<課題>

- ・我が国の伝統文化について“教え導く内容”と“体験そのものを楽しませる内容”について意識しながら「かしわタイム」の活動内容や時数についてさらに検討していく。
- ・本校における伝統文化教育のねらいと系統性を明確にした「伝統文化教育全体計画」をつくる。
- ・各教科、道徳の指導計画における伝統文化教育の位置付けを明らかにする。

### ◆平成18年度研究主題

#### 我が国の伝統文化に関心をもち、それらを日常生活に進んで生かそうとする児童の育成 －「かしわタイム」を中心とした体験活動を通して－

以下のような手だてをとおして、かしわタイムを中心とした体験活動を行うことで、我が国の伝統文化に関心をもち、それらを日常生活に生かそうとする児童を育成することができるであろう。

- (1) 和室の活用を図りながらかしわタイム」を継続的に実践し、発達段階に応じた指導計画の改善を行う。
- (2) 伝統文化と関連させた「総合的な学習の時間（伝統文化にふれよう）」及び各教科の教材開発を行う。
- (3) 「石巻小学校礼儀作法指南書」を活用した日常指導を継続的に行う。

<主な研究内容>

- ・学年部仮説と具体的な指導の手だての設定
- ・「礼儀作法」の重点化と指導計画の改訂
- ・「かしわタイム」の継続実践、「折り紙・風呂敷」領域の追加
- ・「和太鼓」領域を音楽科へ移行して実践
- ・「石巻小学校礼儀作法指南書」を活用した日常指導の継続と重点指導内容の改訂
- ・「総合的な学習の時間」の実践
- ・「伝統文化と関連させた教科、道徳」の指導計画の作成と12回の活動研究会の実施

<課題>

- ・「かしわタイム」、「各教科」の指導においては、今年度新たに実践した領域の成果と課題を踏まえ、学年に応じた指導時数と内容を検討し、指導計画や指導資料を整備していく。
- ・「日常生活に進んで生かそうとする児童」について、今後も児童の感想や活動の姿の記録を日々蓄積していく。
- ・今後も、将来的な児童の姿を大切にしながら日常実践を研究の中心としていくとともに、カリキュラムや指導案などの実践事例を蓄積・公開し、伝統文化に関する研究内容を開かれたものにしていく。

◆平成19年度研究主題

我が国の伝統文化を尊重する児童を育てる教育課程の編成  
－「かしわタイム」を中心とした体験活動を通して－

本校教育課程の編成において、以下のような具体的な手だてを講じていけば、我が国の伝統文化を尊重する児童を育成することができるであろう。

- (1) 和室の活用を図りながら「かしわタイム」を継続的に実践し、発達段階に応じた伝統文化に関する体験活動の内容や技化を目指した指導方法の在り方を工夫する。
- (2) 「石巻小学校礼儀作法指南書」を活用した礼儀作法に関する日常指導や伝統文化に触れさせるための学年の取組を工夫する。
- (3) 伝統文化と関連させた「総合的な学習の時間」「各教科、道徳、特別活動」の教材開発及び指導計画の改善を図る。

<主な研究内容>

- ・学年部仮説と具体的な指導の手だての設定
- ・「かしわタイム」の指導計画の改訂
- ・「石巻小学校礼儀作法指南書」を活用した日常指導の継続、「礼儀作法に関する一日の指導規範」「学習及び給食に関する指導規範」の追加
- ・「古典の暗唱」における学年ごとの取組一覧の作成
- ・伝統文化と関連させた「総合的な学習の時間」「教科、道徳、特別活動」の指導計画の作成と12回の活動研究会の実施

<課題>

- ・食事に関する指導は、今後も本校の「いのち育て」と関連させながら継続していく。
- ・礼儀作法を中心とした日本の伝統文化な身体文化では、型の指導を通して心を育てていく。本校の伝統文化教育で体験したことや実践したことは、児童の将来において有意義であるという考えの下に、今後もこれまで開発した伝統文化教育全体計画を継続実践していきたい。

◆平成20年度研究主題

我が国の伝統文化を尊重する児童を育てる教育課程の編成  
－「かしわタイム」を中心とした体験活動を通して－

本校教育課程の編成において、以下のような具体的な手だてを講じていけば、我が国の伝統文化を尊重する児童を育成することができるであろう。

- (1) 和室の活用を図りながら「かしわタイム」を継続的に実践し、発達段階に応じた伝統文化に関する体験活動の内容や技化を目指した指導方法の在り方を工夫する。
- (2) 「石巻小学校礼儀作法指南書」を活用した礼儀作法に関する日常指導や伝統文化に触れさせるための学年の取組を工夫する。
- (3) 伝統文化と関連させた「総合的な学習の時間」「各教科、道徳、特別活動」の教材開発及び指導計画の改善を図る。

<主な研究内容>

- ・学年部仮説と具体的な指導の手だての設定
- ・「かしわタイム」の継続実践、「大漁踊り」の領域を「石小伝承踊り『だるま』」に変更
- ・「石巻小学校礼儀作法指南書」を活用した日常指導の継続、「ノートを取り方」「各学年使用ノート一覧」の追加
- ・「鉛筆の持ち方」についての実態調査、矯正器具を使用しての指導
- ・伝統文化と関連させた「総合的な学習の時間」「教科、道徳、特別活動」の指導計画の作成と12回の活動研究会の実施
- ・各学年の日常指導の様子をホームページに毎月掲載

<課題>

- ・「石巻小学校礼儀作法指南書」については、今後も必要な内容を追加したり、児童の実態に合わせて内容を修正したりしながら、より充実したものにしていきたい。
- ・今後も、将来的な児童の姿を大切にしながら日常実践を研究の中心としていくとともに、指導案や活動研究会の様子、研究だより等をホームページ上に公開し、伝統文化に関する研究内容を開かれたものにしていく。

◆平成21年度研究主題

我が国の伝統文化を尊重する児童を育てる教育課程の編成  
－「かしわタイム」を中心とした体験活動を通して－

本校教育課程の編成において、以下のような具体的な手だてを講じていけば、我が国の伝統文化を尊重する児童を育成することができるであろう。

- (1) 和室の活用を図りながら「かしわタイム」を継続的に実践し、発達段階に応じた伝統文化に関する体験活動の内容や技法を目指した指導方法の在り方を工夫する。
- (2) 「石巻小学校礼儀作法指南書」を活用した礼儀作法に関する日常指導や伝統文化に触れさせるための学年の取組を工夫する。
- (3) 伝統文化と関連させた「総合的な学習の時間」「各教科、道徳、特別活動」の教材開発及び指導計画の改善を図る。

<主な研究内容>

- ・ 学年部仮説と具体的な指導の手だての設定
- ・ 「かしわタイム」の継続実践、「石小伝承踊り『だるま』」の指導計画の改善・充実
- ・ 「石巻小学校礼儀作法指南書」を活用した日常指導の継続、学習指導における「ノートを取り方」の継続
- ・ 「鉛筆の持ち方」についての実態調査、矯正器具を使用する指導の継続と指導法の工夫
- ・ 伝統文化と関連させた「総合的な学習の時間」「教科、道徳、特別活動」の指導計画の作成と12回の活動研究会の実施
- ・ 各学年の日常指導の様子（毎月）、伝統文化関連のクラブ活動の様子（随時）をホームページに掲載

<課題>

- ・ 「石巻小学校礼儀作法指南書」の意義をしっかりと押さえ、日常指導を継続していく必要がある。
- ・ 伝統文化教育の意義や役割を職員が共通理解し、共通実践を行うためにも、日常的な職員研修を継続していく必要がある。